



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)
 2018年9月15日 発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子
 第684号 月2回(1日、15日)発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

新生 JR東労組 出発進行 各地で分会大会開催

**組合員の皆さん
分会大会に結集し
職場の現状を自らの言葉で語ろう。
本音の議論で分会方針を練り上げよう!**



仕事に対して責任とプライドを持っている! 仲間と共に声をあげ、職場・仕事・仲間を守ろう!



会津若松支部は、支部大会の教訓的発言を全体化していくことを目的に、各分会代表者が集まり9月7日に意見交換会を開催しました。

会津若松保線技術センター分会の仲間が、エリアセンター化に伴う職場問題を解決してきた点や、会津若松運輸区分会が意識的にレクを開催し、仲間との繋がりを深めてきたことなど、それぞれの想いを出し合い、働きやすい職場づくりと組織拡大に向けて議論しました。

一支部大会の発言でもあったように、どのように職場問題を解決してきたのか。

(保線技術センター分会)

会津若松保線技術センターがエリアセンターになったのが、7月1日。26人いた社員が、現在では14人まで減少し、若手は2人しかいない。団体交渉で確認してきた「パートナー会社への業務委託内容の一部」について、職場で反故にされようとしていたので、声をあげて団体交渉の確認事項を明確にすることで、改善を図ってきた。

なぜ、声をあげることができたのか。

(保線技術センター分会)

これまで数々の経験を積んできた昭和採用の自分として、団体交渉で決まったことを職場で履行させていくのは当たり前のこと。7月1日から開始になったとは言え、線を引いたかのようにスパッと変わらないのは職場の現実である。しかし、その過程の中で問題が発生しても黙っていたら、現状を認めてしまうことになり、何のために団体交渉を行ったのか分からなくなる。だからこそ、声をあげてきた。

一そこまで自分を奮い立たせるものは何か。

(保線技術センター分会)

仕事に対して「責任とプライド」を持っている。ゆとりや働きがいのない仕事では安全運行・安定輸送に結びつかないと率直に思っているからだ。現在、複数の担務を受け持っているが、知識と経験があるからこそ担えている自負がある。組合役員を担うことで、業務に対しての向き合い方の幅が広がった。

(運輸区分会)

先輩の労働組合や業務に対して向き合う姿勢を、私たち平成採は真剣に学ばなければならない。よく職場の中で会話になるのは、乗務員は経験則が大事であること。経験談や失敗談を語り、感性・感覚・判断力を常に養っていくことが非常に大事だと思う。休憩室や乗務の合間のコミュニケーションが減っているように感じ、危機感を抱いている。

(駅連合分会)

平成採用の仲間が増えてきている。「業務への向き合い方」「社会人としての礼儀やあるべき姿」なども、本来業務だけでなく技術継承をしていかなければならない時代だと感じる。同時に教育のあり方を考えなければならない。

一労働組合の必要性についてどう感じているか。

(保線技術センター分会)

これまでも声をあげ続けることで、多くの職場問題を改善してきた。そのことを通じ

て、結果的に会社の発展と組合員・家族の幸せにつながっている。だからこそ、職場を残していくためにも、問題を改善することは労働組合としての重要な役割である。

(派出分会)

郡山総合車両センター会津若松派出の職場は、退職に近い昭和採用の組合員が多くいて「技術継承・技能伝承を行い、安全を確立できる体制が必要である」と声を出し続けているが、改善まで至ってはいない。分会組合員で議論し、今後も知恵を出し合って意見を述べていく。

(保線技術センター分会)

残念なことだが、自ら命を断ってしまった方を多く知っている。精神的に苦しくなると、仲間が悩むような職場にはいけない。保線技術センターのときからも、36協定の議論を通じて「安全・健康・ゆとり・働きがい」が担保できる職場を目指してきた。エリアセンターになり、より少ない人数で業務を担うため、長時間労働に対しても目を光らせ、見て見ぬふりや泣き寝入りのない職場を創り出していかなければならない。

一今後の分会運動づくりに向けて

(運輸区分会)

仕事に責任を持って、自分のためだけでなく仲間のためにも働きやすい職場づくりを分会としても目指していく。

また、以前に仙石線の津波線区の現地踏査や羽越線脱線事故現場に赴き、現地に立つことで命の大切さを学んできた。自らが感じたことや学んだことを発信すると同時に、日々の業務に対しても活かしていくことが、犠牲になられた方に対しての自分たちの決意である。

先日はパーベキューレクを開催し、多くの仲間に参加してもらった。「今は、遊びを通じて仲間意識を深めることが重要である」という感想が出された。仲間とさらに懇親を深めるために、レクを定期的に開催していく。

(保線技術センター分会)

労働組合を脱退してしまえば、何かあったときに後ろ盾が何もない。だからこそ「辞めるな」と仲間にも訴えかけつつ、脱退せざるを得なかった仲間に対しても「戻ってこい」と堂々とと言える組織を本部・地本・支部と共に創り出していく。



職場問題の解決を通じて魅力ある職場と労働組合を全組合員で創り出そう!!

多くの仲間が、JR東労組の「抵抗とヒューマニズム」を基底にした運動があったからだと感じてくれた。全組合員の職場活動を原点に、ボランティア活動や責任追及から原因究明を基礎とした何でも言い合える職場風土など、人を第一にした運動が仲間との連帯感をつくってきた▼JR西日本で行われている新幹線の300キロ体験研修。走行する新幹線の上下線の間に座らせるなど異常であり、今すぐ止めるべきだ。恐怖で精神に支障をきたしてもおかしくなく、人間を破壊するものだ▼安全な職場風土は管理強化で実現はしない。AIの発展など時代が変化してもJR発足の「一人間尊重企業」現場第一主義に徹するこの精神は守り抜きたい。(S・S)



北海道で震度7の地震が発生した。犠牲になられた方のご冥福をお祈りします。